

第2章 マウスを用いた動物モデルに関する研究

目 次

I. 動物モデル研究の概要	27
II. 研究者及び研究協力者名簿	33
III. 研究結果報告	35
1. 低濃度のホルムアルデヒドに長期曝露されたマウス嗅覚系の形態学的 解析	35
(1) 研究目的	35
(2) 方法	35
(3) 結果	35
(4) 考察	37
(5) 文献	37
図	38
2. ホルムアルデヒド及びトルエンの長期曝露が視床下部—下垂体— 副腎軸に及ぼす影響	40
(1) 研究目的	40
(2) 研究方法	40
(3) 研究結果	42
(4) 考察	43
(5) 参考文献	44
図	46
3. 脳内海馬での情報処理変化の検討	57
(1) 過敏症の動物モデル作成における研究班のアプローチ	57
(2) 2000ppbのエンドポイントとその量—反応関係について	57
(3) メカニズムについての仮説	59
(4) 平成16年度の新たな知見	60
4. 低濃度長期ホルムアルデヒド及びトルエン曝露の免疫系、及び神経 —免疫軸への影響についての検討	62
(1) 研究目的	62
(2) 研究方法	62
(3) 主な研究結果	62
(4) 考察	65
(5) まとめ	67

(6) 参考文献	67
5. ホルムアルデヒド曝露後の自発運動量の観察、 およびホルムアルデヒドあるいはトルエン吸入曝露によるマウスの くしゃみ様症状の定量	69
(1) 研究目的	69
(2) 研究方法	69
(3) 研究結果	69
(4) 考察	70
図	71
6. その他の影響	76
6-1) 化学分析による曝露指標	76
(1) 研究目的	76
(2) 研究方法	76
(3) 研究結果	77
(4) 結論	77
図	78
6-2) 低濃度ホルムアルデヒドおよびトルエン曝露による マウス気道粘膜上皮細胞の変化と炎症細胞の動態についての形態学的 検索	82
(1) 研究目的	82
(2) 研究方法	82
(3) 研究結果	82
(4) 結論	83
図	84
付録. 吸入曝露装置および曝露条件	90
(1) 実験動物	90
(2) ホルムアルデヒド吸入曝露装置	90
(3) ホルムアルデヒドガス曝露方法	90
(4) ホルムアルデヒド曝露濃度評価	91
(5) トルエン吸入曝露装置	91
(6) トルエンガス曝露方法	91
(7) トルエン曝露濃度評価	91
(8) OVA感昨	92
図	93